

第32回 地域ダイバーシティin横浜 開催報告

項目		内容
開催テーマ		性的少数者について
開催日		2020年10月16日（金）
会場		オンライン開催（Zoom、横浜市役所にて参加）
報告団体名		株式会社日本政策金融公庫
参加企業	参加団体数	10社
	参加人数	37人
開催内容	タイトル	講演タイトル「多様性を認め自分らしく生きられる社会づくり～20人に1人はいるかもしれないLGBT～」
	具体的内容	<p>・今回は新型コロナウイルス感染症拡大により当初スケジュールを延期せざるを得ず、やむなくオンライン開催となった（オンライン環境のない団体は横浜市役所での参加）。</p> <p>・前半は、（認定）特定非営利活動法人SHIP（シップ）の星野慎二氏を講師にお迎えし、「多様性を認め自分らしく生きられる社会づくり～20人に1人はいるかもしれないLGBT～」と題した講演を実施した。</p> <p>・講演では、近年多様性に対する関心が高まりつつある中で、性的マイノリティの方が置かれている現状と課題、周囲が気を付けたいことについてご講演いただいた。</p> <p>・現状の問題点は、世間の性的マイノリティに対する理解が進まず偏見や差別が多いことであり、結果としてなかなかカミングアウトできないといった状況となっている。そのため、世間の理解が深まり、カミングアウトしなくても過ごしやすい<u>ポジティブな環境づくり</u>が課題である。</p> <p>・そうした中、最近「おっさんずラブ」等性的マイノリティが登場するドラマが増えてきている背景は、東京オリンピックが関係しており、オリンピック憲章（オリンピックの根本原則）の中で「性的指向」を含むいかなる種類の差別も行わない旨が謳われていることが大きく影響している。</p> <p>・周囲が気を付けるために理解を深めるべき事項として、①性的マイノリティは人口の3～5%（20人に一人）と推定されること②からだの性、性自認、性的指向、性別表現を分けて考えること③レインボーフラッグはLGBTの象徴であること③厚労省の「モデル就労規則」にてSOGIハラスメント（性的指向や性自認に関する差別的な言動や嘲笑等）を禁止していること等をご説明いただき、最後に各所での具体的な取り組み事例（※）をご紹介いただいた。</p> <p>（※）公共施設でジェンダーフリーの「だれでもトイレ」が増えていること、各種公的書類にて性別記入欄が廃止されつつあること等。</p> <p>・後半は、参加団体によるグループディスカッションを実施し、各参加団体で行っている取り組みや課題等を議論した。組織的に具体的な取り組みを行う団体はまだまだ少ないが、今後取り組むべき内容として、お客様窓口にはレインボーカラーを掲示することやバッジを身に着けることで理解を示すこと等の意見があった。参加者には、子供の通う保育施設に性的マイノリティの子供がいるが指導員の理解があり、自然に溶け込んでいるとの発言があり、講師からそうした環境づくりが一番大事との総評。</p>
	感想・気づいた点	<p>・自分自身、講演を通してまだまだ理解不足であることを感じ、ポジティブな環境づくりのためには、一人ひとりが最新の情報をいち早く把握し、自ら言動に注意する必要性を感じた。</p>
		